



書家 加藤裕さん作『久遠』

真宗高田派
賢隆山久遠寺

〒460-0007

名古屋市中区新栄1-4-6

Tel & fax 052-241-5231

www.kuonji.net

Kenryuzan-kuonji@nifty.com

久遠寺住職の いま不思議ないのちを生きている!



6月21日に日本で広範囲に見られる金環日食が932年ぶりに観測されました。ご存知の通り、中国から香港・台湾そして日本、そして北米に至る細い帯状地域でよく見られた現象で、太陽の中心部が月に隠れてできた細い黄金リングの状態を云います。

現代では宇宙の神秘・不思議・微妙なるこの光景が人間に感動をもたらす現象であります。しかし古代では悪い事が起きる前触れとしか受け取られなかったそうです。太陽がむしろ「さびみ尽くされた」と表現もされ、畏れ慄いたとされています。そういった経緯がありながら、近代科学の発達により太陽・月・地球の関係から起きたことが明らかに冷静に受け取られるようになりました。さらに太陽の電磁波の影響で動物たちが本能的に平常と違った行動をするというのもわかつてきました。



本山より株分けされた蓮

6月6日には金星の日面通過、太陽と金星、地球が一直線に並んだ時に起こる現象)が起こり、太陽の手前を黒い金星の影が通過すると報道で伝えられていました。また8月14日には23年ぶりに「金星食」があるそうで金星の前を月が横切つて金星を隠す現象が観測できるそうです。

皆既日食、月が太陽を隠した現象)などは、若い頃ガラス板を黒くして観測した覚えがあります。けれども、今年のように幾通りかの天体の現象は見たことがなく、人類の飽くなき知識探求により数億年の天体の歴史が少しずつ明らかにされているのが実感できます。それと同時に沢山のわからないが増え、人類の起源、宇宙の成り立ちが今後もさらに研究されていくことでしょう。

このような天体の現象は、もともとあったことで宇宙のはたらきの広大無辺なる事を感じます。地球上では科学技術により豊かで便利な生活を求めた結果、自然破壊や生態系の危機、核の恐ろしさ、原発の汚染、人間同士の意志の疎通、親子によって継承されるべき伝統の教えが失われつつあります。

今後、今現在の便利な生活からは抜け出すことはできないでしょう。結果的に失うものが多くあり、必要なものは利用され、不必要なものは排除していくことになるでしょう。最悪戦争も起こりうるでしょうし、命そのものが物質化されてしまう恐れを感じます。

〜次のページへ続く〜

〜前ページからの続き〜
私という存在は、大地から生まれ
あらゆるものの支えによつて生か
されて生きていく訳で、もう一度
宇宙の神秘なるはたらきを知り、
先に往かれた人々の生涯を尋ね、
それを親から子へ子から孫へと伝
え次いで行くべきでありましよう。
どうしても私自身はこの社会の便
利で簡単、速いということで大切な
何かを失っていくように感じてし
まうわけです。

人間の価値は自分で判断するこ
とではなく、他が判断すること
でしょう。健康な人、権力・地位のあ
る人、学歴のある人、病気の人の、亡
くなられた人々は価値がありま
しょう。けれども、全ての人は自
分自身に人間の在り方は何であ
るかを問い続け、自分以外の人々
に関心を持つことが大切でありま
しょう。それが自分の問題として
人々とのつながりを認識し、苦悩
を共に生きていくのです。そして、
今あるがままの生涯を生きていくこ
とが、後世への教えとなるのではない
でしょうか。



人間科学技術の発展と飽くな
き欲望の追求は、尊い人間の方
ではコントロールできない世界を
作りだしてしまつた。原発だけ
でなく政治、経済や各学問の知
もマルチダウンを通り越してメ
ルトスルーしてしまつて、人類の
滅亡の予感が切実な問題となつ
て迫ってきた。』

中外日報

人類の科学技術により便利に
はなりましたが、その科学技術を
作り出した人間そのものを考え
ねばならない時でありましよう。
自分自身に、その科学を絶対化
することなく人類の知の限界を自
然に教えられ、壊れたら修復する
技術、持続可能なエネルギーの研
究に国は援助をするべきでありま
しょう。

いのちの根源である自然の恵みに
感謝し続けなければ、人間同士
が思いを満足させる為に他者を
非難する争ひはますます混迷化
します。人を敬う心、与えられた
命に対する畏敬の念が失われ、人
間は物質化し、他との関わりが薄
れ、孤独な人生となるのが、ここ
まで迫っているように感じずにはお
られません。

久遠寺住職 高山元智
合掌

長編連載 『心』の響き』

久遠寺檀家の一員さん

そうした親の中には学校も職場の場と勘違いしているかと思ひます。
家庭が近代化に順応しようとして背延びた生活を熱望する余り、母親ま
でも社会に進出、幼児期でも母親とのスキンシップに欠ける状態が生じ
ましよう。このような現状を目に致しますと、尚更、昔の家庭が懐かし
く思い出されます。兎にも角にも此の項は自分を主張することが強すぎ
て・・・人は振り返ることも大切です。

戦後日教組が出来PTAが組織されたため、学校と保護者の交流が
深まりましたが反面保護者が先生と対等の意識を持つようになったと
思われます。しかし、教師は教える立場、生徒は教えを乞う立場を正し
く理解して事に当たってほしいと、熱望する次第です。学校の祝典等の
時に国家を唄わなかったり日の丸の国旗に敬虔の情を示さなかったりの
教師が一部におられることは甚だ心外の感です。・・・次回へ続く

お盆は何？ 第25号引用

お盆の正式名称は「盂蘭盆」といい、インド語のウランバナに漢字をはめた
ものです。「盂蘭盆経」の目連尊者の物語がよく話されることが多いよう
お釈迦様の弟子であった神通力第一の目連様はある時亡くなった母の様子を
見てみました。すると、母は哀しい事に餓鬼道に墮ちていたそうです。優し
かった母がなぜと思ひ、どうしたら母を救えるかをお釈迦様に尋ねました。す
るとお釈迦様は「目連よ、汝の母の罪は重く、一人の力では救うことはできな
い。救いたければ、大勢の僧侶を招き、百味の盆を供え供養しなさい」と。そ
うすると、母はたちまち救われ僧侶は皆揃って踊り歡喜したそうです。

開山堂出版より

インド語のウランバナの意味は「倒懸」で逆さまに吊り下げられた苦しみに
あります。しかし、お釈迦様の本当の真意は、目連様の考え自体が逆さまであ
り、少くく修行し供養しても母を救おうとする考えが間違ひであると云わ
れています。実は母はすでに救われている、その母から人間の生死無常である
ことを母を通して教えられていくことが真意なのです。僧侶たちが踊り喜んだ
踊り歡喜」というのが盆踊りの始まりと云われています。そして、真宗では
お盆を「歡喜會」と呼び、本当の教えに遇い喜ばしい法会のことをいいます。
親・先祖の「恩・教えから自らを省みる大切な時期であります。是非ご家族
揃ってお参り致しますよう。

合掌

法語カレンダーを味わおう!!

七月

生死のうみに

うかみつ

有情をよぼうて

のせたもう

弥陀観音大勢至

大願の船に乗じてぞ

生死のうみにうかみつ

有情をよぼうてのせたもう

『正藏末法和讃』第五十二首

観音菩薩は阿弥陀の慈悲を表し、親鸞聖人は聖徳太子を救世観音大菩薩、聖徳星と示現して、多多(父)のごとくすてずして阿摩(母)のごくにそいたてまうと敬まわれしました。又法然上人を智慧の大勢至菩薩の化身であると表されました。生死の海に浮かんでいる我らは苦悩と悲しみで底のない世界に浮かんで迷っていることに気付いておりません。我ら有情・衆生 生きとし生くるもの(に)対して、向(こう)から(こ)ち(へ)来(来)いよと喚んで下さつていわれます。

生(なま)のみに執着し死(し)を遠ざけて考えるようにしている我(わ)らです。病(やま)気(き)も老(ら)いも来(来)てようやく身(み)の二(に)つ(つ)の器(け)官(くわん)が悪(わる)くなり、少(す)しずつ自(みづか)分の力(ちから)で生(なま)きているのではない、生(なま)かされていることを我(わ)が身(み)に教(し)えてもら(もら)えるのです。先(ま)に往(むか)された人(ひと)々(々)が本(ほん)当(とう)の願(ねが)いを聞(き)いてくれと願(ねが)われているのでありま(ま)しょう。生(なま)と死(し)は、別(わか)々のもの(もの)ではなく、私(わたし)自身(みづか)が二(に)つ(つ)とも持(も)つてい(い)るもの(もの)である(ある)のです。

八月

信心のひとは

その心

すでにつねに

浄土に居す

信(しん)は疑(ぎ)いなきこころなり。すなわちこれ真(ま)実(じつ)の信(しん)心(しん)なり。・本(ほん)願(ねが)他(た)力(りき)をたのみて自(みづか)力(ちから)をはなれらる、これを唯(ただ)心(しん)とい(い)ふ。唯(ただ)信(しん)鈔(じょう)文(ぶん)意(い)』

人間の信心とは、信ずる対象を偶像化した(た)り絶(た)対(たい)化(け)して自(みづか)分(ぶん)流(りゅう)に信(しん)じる事(こと)が(が)あ(あ)り(あ)ります。

それはいつでも、どこでも、誰(たれ)にでも通(とお)じる信(しん)ではありませ(せ)ん。善(ぜん)き人(ひと)達(たち)が人(ひと)間の汚(よご)れた思(し)い(い)を省(しや)みて、自(みづか)分(ぶん)自(みづか)身(みづか)の根(ね)源(げん)を尋(たず)ねてみ(み)て下(くだ)さい。また自(みづか)分(ぶん)自(みづか)身(みづか)の愚(ぐ)か(ぐ)さ、弱(よわ)さ(さ)の事(こと)実(じつ)に領(りやう)き、今(いま)生(なま)きてい(い)ると思(おも)つてい(い)る考(こう)えを碎(くだ)きな(な)さいと言(い)われお(お)り(お)ます。こ(こ)のこ(こ)に気(き)付(つ)いた瞬(しゆん)間(かん)、新(あたら)しい自(みづか)分(ぶん)が生(なま)ま(ま)れ、自(みづか)分(ぶん)の思(し)い(い)を超(こ)え相(あ)手(て)を敬(や)い喜(よろこ)びあ(あ)える世(よ)界(かい)に遇(あ)わ(わ)せて頂(たま)くこ(こ)が(が)でき(き)るの(の)で(で)は(は)ないで(で)し(し)ょう(しょう)か。

毘(ひ)獄(ごく)は領(りやう)域的(てき)にある(ある)の(の)で(で)なく、人(ひと)間の煩(わづ)悩(なう)・人(ひと)間の知(ち)識(しき)で作(つく)り出(だ)して(して)い(い)る。浄(じやう)土(ど)はあ(あ)る。し(し)かし見(み)失(しつ)つて(て)い(い)る』と、あ(あ)る先(ま)師(し)が申(まを)され(れ)た(た)の(の)です。

九月

如来の願船

いまさずは

苦海をいかでか

わたるべき

相(あ)手(て)に對(たい)しての悲(かな)しみ、こ(こ)の悲(かな)しみ(み)の心(こころ)は自(みづか)分(ぶん)主(しゅ)体(たい)で(で)あ(あ)り(あ)り(あ)ますが、大(だい)慈(じ)・大(だい)悲(ひ)とは覺(かく)者(しや)の教(しよ)えで(で)あ(あ)り(あ)ります。

こ(こ)の度(た)の震(しん)災(さい)にお(お)いて(いて)も苦(くる)しん(しん)で(で)い(い)る人(ひと)々(々)を助(たす)けるこ(こ)が到(た)底(てい)で(で)き(き)ない(ない)が事(じ)実(じつ)で(で)あ(あ)り(あ)ります。自(みづか)分(ぶん)の思(し)い(い)や煩(わづ)悩(なう)い(い)ば(ば)い(い)で(で)生(なま)きてい(い)るこ(こ)の苦(くる)海(かい)を(を)ち(ち)ら(ら)か(か)ら(ら)向(むか)う岸(き)ま(ま)で(で)渡(わた)して(して)や(や)ら(ら)う(う)とい(い)う(う)の(の)が(が)仏(ぶつ)の願(ねが)い(い)で(で)あ(あ)り(あ)ります。

何(なに)もで(で)き(き)ない(ない)自(みづか)分(ぶん)で(で)あ(あ)り(あ)り(あ)りますが、仏(ぶつ)様(さま)のそ(そ)の(の)大(だい)き(き)な(な)悲(かな)しみ(み)、大(だい)き(き)な(な)心(こころ)に(に)よ(よ)る(る)大(だい)き(き)な(な)船(ふね)に(に)速(すみ)く乗(の)り(り)な(な)さいとい(い)う(う)の(の)喚(こゑ)び(び)声(こゑ)と(と)も(も)に(に)今(いま)乗(の)る(る)事(こと)が(が)出(で)来(こ)る(る)の(の)です。今(いま)こ(こ)の現(げん)実(じつ)の事(こと)実(じつ)を(を)引(ひ)き受(う)けて(て)下(くだ)さ(さ)る(る)御(ご)心(しん)が、我(わ)々(わ)々(わ)に(に)對(たい)する(する)悲(かな)痛(いた)なる(なる)大(だい)き(き)な(な)慈(じ)悲(ひ)で(で)あ(あ)り(あ)り、教(しよ)え(え)な(な)の(の)で(で)あ(あ)り(あ)り(あ)ま(ま)しょう。

悲(かな)しみ(み)と痛(いた)み(み)が(が)ない(ない)と相(あ)手(て)の身(み)に(に)は(は)到(た)底(てい)な(な)れ(れ)ませ(せ)ん、苦(くる)悩(なう)の中(なか)に(に)生(なま)き(き)ら(ら)れた(た)先(ま)師(し)の言(ごん)葉(え)を(を)聞(き)か(か)ず(ず)に(に)お(お)れ(れ)ませ(せ)ん。また自(みづか)分(ぶん)の本(ほん)性(じやう)が(が)さ(さ)ら(ら)け(け)出(だ)さ(さ)れた(た)時(とき)、よ(よ)う(う)やく(やく)少(す)し(し)づ(づ)つ(つ)仏(ぶつ)様(さま)の教(しよ)え(え)に(に)遇(あ)わ(わ)せて(て)頂(たま)くこ(こ)が(が)出(で)来(こ)て(て)く(く)る(る)の(の)で(で)は(は)ない(ない)で(で)し(し)ょう(しょう)か。

久遠寺の掲示板



煩悩を

やめることは

できぬけれど

煩悩と

知ることは

できる

仲野良俊

本山より株分けされた蓮



久遠寺正門に設置してある掲示板法語は月に二回ほど更新しております。法語に含ませて当寺住職の味わいをお楽しみ下さい。

仏教クイズ

あなたはく〜く答えてくれる？

一、佛様を表現すると言われる華は？

- ① 菊
- ② 百合
- ③ 松
- ④ 蓮
- ⑤ 柳

二、なぜその華は仏様に例えられる？

- ① きれいだから
- ② 枯れないから
- ③ 汚泥にそまらないから
- ④ 匂いがいいから

三、佛様が立たれている石の名は？

- ① 蓮台
- ② 踏み台
- ③ 華台

答えは、このページの左下！

編集後記

私事ではありますが、先月8日第一子男の子が誕生致しました。この場をお借りして皆様にご報告申し上げます。親鸞聖人は当時、僧侶が妻帯するというタブーを犯してまで妻帯し、お念仏の道を歩まれました。それも師法然上人のお念仏が励みやすい道を歩みなさい」とのお言葉からだそうです。私自身も子の誕生がさらなるお念仏の道を後押しするものであると確信をもって、法務に勤めて参りたいと思います。長男と同様、今後ともご指導頂きます様お願い申し上げます。

南无阿弥陀仏

衆徒 高山信雄

- ◎ 久遠寺HP & blogも随時更新中です。是非お時間のある時にご覧ください。
- ◎ 寺報記事も随時募集中です。ご協力お願い致します。
- ◎ お経本・お念珠は大切なものです。床に直接置かないように気を付けましょう。

今後の予定

7月20日(金)
午後1:30～
真宗入門法話会 ②③
和讃のこころ
～善導大師～

8月10日(金)
午前8時～
歡喜会 お盆
墓参り
☆皆様の御参詣を心よりお待ちしております。

9月未定
午後1:30～
真宗入門法話会 ②③
和讃のこころ
～副題未定～

9月22日(土)
午前8時30分～
讚仏会 お彼岸
墓参り
☆皆様の御参詣を心よりお待ちしております。

10月20日(土)
午前・午後
報恩講
☆お勤め 午後一時始経
☆法話 午後二時頃
☆茶会 午前九時半
☆非時 午前十一時

是非皆様お揃いで御参詣ください。

久遠寺 平和公園墓地 久遠寺本堂 平和公園墓地 久遠寺本堂